

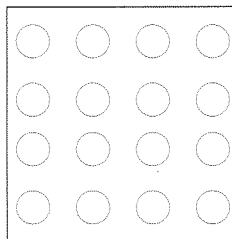
グループ討議 20分

【学習のねらい】

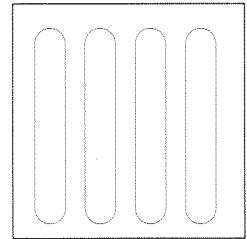
写真を見ながら、地域社会のバリアフリーについて考え合い、自分の意識や生き方を振り返り、障害者の社会参画を実現していくために、自分ができることを語り合う。

【準備】 ワークシート・グラビア
(P10)

警告ブロック例



誘導ブロック例



【進め方】

(1) ワークシートを配る

(2) A ……このような風景はあなたが住んでいる地域でもありますか。気づいたことを出し合ってみましょう。

B ……この看板はある地域にあるものです。どう思いますか。

C ……いろいろな点字ブロックがありますね。

どうしていろいろな種類のものがあるのでしょうか。

【留意点】

障害のある人たちの社会参画を実現していくために、社会や自分は何ができるか具体的な生活の中から語り合いたい。

A ……このような現状に無関心であった自分を振り返る意見を大切に考えたい。単に、「迷惑である」という考え方でよいのか、より深く考え合いたい。

B ……この街には福祉施設があり、障害者も共に暮らすことのできる、住みよい、やさしい街づくりをめざして、立てた看板だと思います。しかし、障害のある人の立場で見たらどうだろうか。互いが気持ちよく誰もが住みよい街づくりのための言葉を考え合いたい。

「障害にやさしい街をつくりましょう」「車いすの人が通ります。お互いに注意し合いましょう」など

C ……目に障害のある人は、この違いをとて頼りにしている。「止まれ」「進め」のサインであることを確認したい。それと共に、グラビアのカラー印刷を参考にして、景観を考えフローアと同じ色にした点字ブロックは、弱視の人にとって明暗がはっきりせず、非常に歩きにくいことにも気づき合いたい。

どう思いますか？



.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



.....

.....

.....

.....

.....

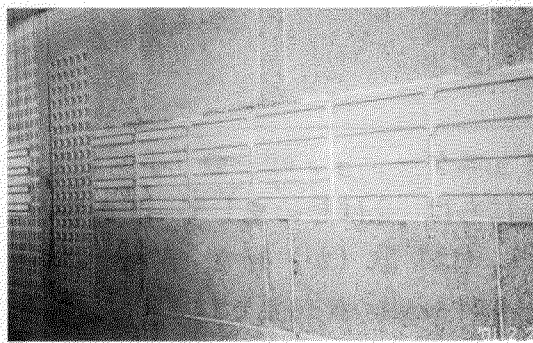
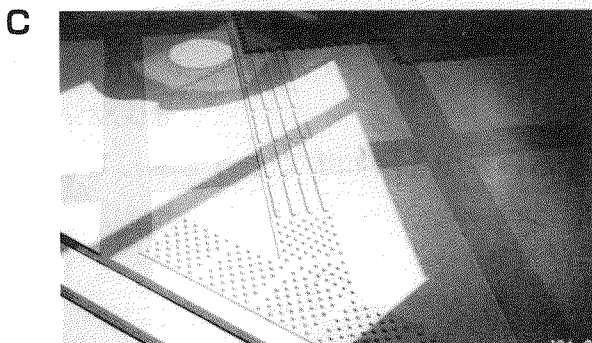
.....

.....

.....

.....

.....



.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

障害者の人権